学校番号	T3015

令和８年度　工業科

教科	工業科	科目	(学)陶芸基礎	単位数	２単位	年次	２～４年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・陶芸の基礎的な技術を学び、作品をつくることによって技能を体得し。さらに、企画、加工、完成の喜びを体験しましょう。

2　学習の到達目標

(1) 陶芸に関する基礎的な知識を習得するとともに，関連する 技術を身に付けるようにする。
(2) 陶芸の制作技術に関する課題を発見し，科学的な根拠に基づき解決する力を養う。
(3) 陶芸実習を通して、技術の向上を目指して自ら学び，ものづくりに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	陶芸に関する幅広い知識を習得し、実際の作業を通して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	陶芸の技術に関する課題を発見し、ものづくり産業に携わる者として科学的な根拠に基づき技術の進展に対応し解決する力を身につけている。	陶芸を通して、技術の向上をめざして自ら学ぶ意欲的な探求心とものづくり産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期・後期	陶芸基礎	・やきものの分類と歴史 ・土練り ・ひもづくり ・タタラづくり ・素焼き ・絵付け ・本焼き ・自動ろくろ ・素焼き ・作品の修正 ・絵付け ・本焼き ・仕上げ	a: 工具の使用方法や基礎・基本的な制作技術を身につけている。 b:工具の使い方や作業工程を考える力を身につけている。 c:陶芸に関心を持ち、課題に取り組むことができる。 陶芸を理解し、主体的に課題に取り組むことができる。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度